

がんに関する意識調査

調査票

Health and Global Policy Institute (HGPI)

日本医療政策機構

スクリーニング調査

SC1 [SA (単一回答)]

あなたの性別をお知らせください。

1. 女性 (対象)
2. 男性 (対象)
3. その他 (対象外)
4. 回答しない (対象外)

SC2 [NU (数値回答)]

あなたの年齢をお知らせください。

1 / 歳 / 20 歳未満は即時終了

SC3 [PD (プルダウン)]

あなたのお住まい (都道府県) をお知らせください。

1 / 47 都道府県 ▼

SC4 [SA (単一回答)]

お住まいの地域の規模について、最も近いものをお選びください。

- [SC3 で東京都以外に表示] 1. 県庁所在地 (政令指定都市)
- [SC3 で東京都以外に表示] 2. 県庁所在地 (政令指定都市以外)
- [SC3 で東京都以外に表示] 3. 県庁所在地以外の市 (人口 20 万以上)
- [SC3 で東京都以外に表示] 4. 県庁所在地以外の市 (人口 20 万未満)

- [SC3 で東京都以外に表示] 5. 町村部・山間地域
- [SC3 で東京都のみに表示] 6. 23 区内
- [SC3 で東京都のみに表示] 7. 23 区外 (島嶼部除く)
- [SC3 で東京都のみに表示] 8. 島嶼部
- 9. わからない/回答しない

SC5 [SA (単一回答)]

あなたの最終学歴をお答えください。

- 1. 中学校卒業
- 2. 高等学校卒業 (専修学校・高専含む)
- 3. 短期大学・専門学校卒業
- 4. 大学 (学士) 卒業
- 5. 大学院修了 (修士・博士)
- 6. わからない/回答しない

SC6 [SA (単一回答)]

あなたの現在のご職業をお選びください。

- 1. 会社員 (正規)
- 2. 会社員 (非正規)
- 3. 公務員・団体職員
- 4. 自営業・自由業
- 5. パート・アルバイト
- 6. 専業主婦・主夫
- 7. 学生

8. 無職 (退職者含む)
9. その他 (FA)
10. わからない/回答しない

SC7 [SA (単一回答)]

あなたの現在の婚姻状況についてお知らせください。

1. 未婚
2. 配偶者あり
3. 死別
4. 離別
5. 回答しない

SC8 [MA (複数回答)]

あなたが現在同居しているご家族について、あてはまるものをすべてお選びください。

1. 配偶者 (またはパートナー)
2. 子ども (未成年)
3. 子ども (成人)
4. 自分の親または配偶者の親
5. 兄弟・姉妹
6. 祖父母
- [排他] 7. ひとり暮らし (同居家族はいない)
8. その他 (FA)
- [排他] 9. わからない/回答しない

SC9 [SAMT (単一回答・マトリクス)]

あなたの個人年収 (税引前) と世帯年収 (税引前) をそれぞれお知らせください。

単身世帯の場合は、個人年収と世帯年収は同額を選択してください。

■ 項目

_1: 個人年収 (税引前)

_2: 世帯年収 (税引前)

■ 選択肢

1. 100 万円未満
2. 100 万円~200 万円未満
3. 200 万円~300 万円未満
4. 300 万円~400 万円未満
5. 400 万円~500 万円未満
6. 500 万円~600 万円未満
7. 600 万円~700 万円未満
8. 700 万円~800 万円未満
9. 800 万円~900 万円未満
10. 900 万円~1,000 万円未満
11. 1,000 万円~1,100 万円未満
12. 1,100 万円~1,200 万円未満
13. 1,200 万円~1,300 万円未満
14. 1,300 万円~1,400 万円未満
15. 1,400 万円~1,500 万円未満

16. 1,500 万円~1,600 万円未満

17. 1,600 万円~1,700 万円未満

14. 1,700 万円~1,800 万円未満

15. 1,800 万円~1,900 万円未満

16. 1,900 万円~2,000 万円未満

17. 2,000 万円以上

18. わからない/回答しない

本調査

Q1 [SA (単一回答)]

現在加入している公的医療保険をお選びください。

1. 勤務先の健康保険 (協会けんぽ・健康保険組合・共済組合など)
2. 国民健康保険 (自営業・フリーランスなど)
- [SC2 \geq 75 のみに表示] 3. 後期高齢者医療制度
4. その他 (FA)
- [排他] 5. わからない/回答しない

民間の医療保険とは、生命保険会社などが販売する任意加入の保険 (がん保険、医療保険、生命保険など) のことです。

Q2 [SA (単一回答)]

あなたは現在、民間の医療保険 (がん保険、医療保険、生命保険など) に加入していますか。

1. 加入している
2. 加入していない
3. わからない/回答しない

Q3 [MA (複数回答)]

どのような民間の医療保険に加入していますか。

あてはまるものをすべてお選びください。

1. 医療保険・医療特約

2. がん保険・がん特約

3. その他 (FA)

[排他] 4. わからない/回答しない

Q4 [SA (単一回答)]

あなたご自身のがんの経験についてお聞きします。

あてはまるものをひとつお選びください。

1. 現在、がんの治療中である
2. 過去がんの治療を受けた (寛解・経過観察を含む)
3. がんの経験はない
4. 回答しない

Q5 [SA (単一回答)]

直近のがんの診断から何年経過していますか。

最も近いものをひとつお選びください。

1. 1年未満
2. 1年以上3年未満
3. 3年以上5年未満
4. 5年以上10年未満
5. 10年以上
6. わからない/回答しない

Q6 [SA (単一回答)]

あなたはの二親等以内のご家族（親・兄弟姉妹・子ども・配偶者など）で、がんと診断された方はいらっしゃいますか。

1. いる
2. いない
3. わからない／回答しない

Q7 [MA (複数回答)]

あなたもしくはあなたの家族ががんと診断されたとき、治療や生活について誰に相談しましたか。

あてはまるものをすべてお選びください。

1. 担当の医師
2. 看護師
3. がん診療拠点病院の相談支援センター
4. 患者会・患者支援団体
5. 家族・親戚
6. 友人・知人
7. インターネットで情報を調べた
8. その他 (FA)

[排他] 9. 相談しなかった

[排他] 10. わからない／回答しない

Q8 [SAMT (単一回答・マトリクス)]

がんの治療には「手術」「薬物療法」「放射線治療」などが主な治療法として用いられます。

それぞれについて知っていましたか。療法ごとにお答えください。

■ 項目

- _1: 手術
- _2: 薬物療法
- _3: 放射線治療

■ 選択肢

1. よく知っていた
2. ある程度知っていた
3. 名前だけ聞いたことがある
4. 知らなかった
5. 回答しない

Q9 [SA (単一回答)]

がんの治療は高度化・複雑化しており、複数の専門医が存在していることを知っていましたか。

例

抗がん剤治療を専門とする「腫瘍内科医」や放射線治療を専門とする「放射線治療医」など

1. よく知っていた
2. ある程度知っていた
3. あまり知らなかった
4. 全く知らなかった
5. 回答しない

近年、がん治療では「緩和ケア」が重視されるようになっていきます。

緩和ケアとは、痛みや不安などの症状を和らげ、患者さんの生活の質を向上させるケアです。

以前は終末期に行われるものとされていましたが、現在は治療の初期段階から並行して行われるようになってきています。

Q10 [SA (単一回答)]

がんの緩和ケアが、終末期からではなく治療の初期段階から行われるようになってきていることを知っていましたか。

1. よく知っていた
2. ある程度知っていた
3. あまり知らなかった
4. 全く知らなかった
5. 回答しない

日本では少子高齢化が進み、地方ではがん診療にかかわる専門医・看護師などの人材確保が困難になりつつあります。

このままでは、一部の地域で高度ながん治療（専門的な手術、薬物療法、放射線治療など）を提供する病院を維持できなくなる恐れがあります。

そこで国では、高度ながん治療の質を維持するために、専門的な設備やスタッフがそろった病院に機能を集約し、役割分担を進める方向で議論が行われています。

この場合、お住まいの場所によっては、遠くの病院に通う必要が生じる可能性があります。

Q11 [SA (単一回答)]

このような医療機能の集約化について、あなたはどのようにお考えですか。

1. 非常に賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 非常に反対

5. わからない／回答しない

Q12 [MA (複数回答)]

医療施設・機能の集約化について、「どちらともいえない」または「反対」とお答えになった理由をお聞かせください。

あてはまるものをすべてお選びください。

1. 遠くへの通院による体力的な負担が大きいと思うから
2. 遠くへの通院によって、仕事・学業などに支障が出ると思うから
3. 介護・育児など家庭の事情で、通院のために長時間家を空けられないから
4. 通院のための交通費や宿泊費など、経済的な負担が増えると思うから
5. 遠くへの通院のための交通手段が確保できないと思うから
6. 地元の医療機関で治療を受けられることのほうが安心だと思うから
7. 集約化によって、地域間で受けられる医療に差が出るのが心配だから
8. 集約化によって、地元の病院の医療の質が下がることが心配だから
9. やむを得ないと思うが、積極的には賛成できないから
10. その他 (FA)

[排他] 11. 特に理由はない／回答しない

Q13 [MA (複数回答)]

あなたが、高度ながん治療を受けるために、地元から離れた専門病院に通院する必要がある場合、

どのような条件が満たされれば「通院してもよい」と思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

※思いつかない場合は、「わからない/回答しない」を選択してください。

■ 選択肢

1. 病院までの交通手段が確保されていること
 2. 交通費や宿泊費について、公的支援や助成があること
 3. 地元の「かかりつけ医」など身近な医療機関と連携し、普段の診察やフォローを近くで受けられること
 4. オンライン診療などを併用し、通院回数を減らせること
 5. その他 (FA)
- [排他] 6. どのような条件が満たされても、遠方への通院は許容できない
- [排他] 7. わからない/回答しない

Q14 [SAMT (単一回答・マトリクス)]

あなたが、高度ながん治療を受けるために、地元から離れた専門病院に通院する必要がある場合、

どのような条件が満たされれば「通院してもよい」と思いますか。重要だと思う順に上位3つまでお選びください。

■ 項目

_1: 1番目に重要だと思うもの

※※前問にて1~5の中で1つのみ選択した場合は、前問の結果を_1に自動でオン

_2: 2番目に重要だと思うもの [Q13で2つ以上選択した場合のみ表示]

_3: 3番目に重要だと思うもの [Q13で3つ以上選択した場合のみ表示]

■ 選択肢

- [Q13=1のみに表示] 1. 病院までの交通手段が確保されていること
- [Q13=2のみに表示] 2. 交通費や宿泊費について、公的支援や助成があること
- [Q13=3のみに表示] 3. 地元の「かかりつけ医」など身近な医療機関と連携し、普段の診察やフォローを近くで受けられること

[Q13=4 のみに表示] 4. オンライン診療などを併用し、通院回数を減らせること

[Q13=5 のみに表示] 5. その他 (FA)

がん検診とは、症状がない段階でがんを早期発見するための検査です。国が推奨するがん検診には、胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・子宮頸がんの5種類があります。

現在、日本のがん検診には「市区町村が行う住民向け検診」と「職場（勤務先や健康保険組合）が行う検診」の2種類があります。

しかし、これらの情報は連携されておらず、日本全体のがん検診受診状況を正確に把握できていないという課題があります。

Q15 [SAMT (単一回答・マトリクス)]

あなたは過去5年以内に、自治体・職場などのがん検診や、自分自身で人間ドックでのがん検診を受診しましたか？

がん検診の種類ごとにお答えください。

※推奨頻度

- ・胃がん検診（胃部X線検査 年1回、内視鏡検査 2年に1回）
- ・大腸がん検診（便潜血検査） 年1回
- ・肺がん検診（胸部X線検査、※喀痰細胞診） 年1回 ※喀痰細胞診は、今までにたばこを多く吸った方が対象
- ・乳がん検診（マンモグラフィ） 2年に1回（40歳以上が対象）
- ・子宮頸がん検診（視診、子宮頸部の細胞診、内診） 2年に1回（20歳以上が対象）

■ 項目

_1: 胃がん検診（胃部X線検査、内視鏡検査）

_2: 大腸がん検診（便潜血検査）

_3: 肺がん検診（胸部X線検査、喀痰細胞診）

_4: 乳がん検診（マンモグラフィ） [女性 (SC1=1) のみに表示]

_5: 子宮頸がん検診（視診、子宮頸部の細胞診、内診） [女性 (SC1=1) のみに表示]

■ 選択肢

1. 定期的に受診するよう心がけている（毎年または2年に1回程度）
2. 機会があれば受診している
3. ほとんど受診していない
4. 一度も受診していない
5. わからない/回答しない

Q16 [SA (単一回答)]

がん検診には、市区町村が住民を対象に行う検診と、職場が契約している医療機関で受ける検診があります。

これらの検診が分かれていることを知っていましたか？

1. 両方とも知っていた
2. 市区町村が住民を対象に行う検診のみ知っていた
3. 職場が契約している医療機関で受ける検診のみ知っていた
4. 分かれていることを知らなかった
5. わからない/回答しない

職場でがん検診を受けた場合、その受診の有無などの情報を市区町村が把握できるようにすることが検討されています。

これは、市区町村が住民のがん検診の受診状況を正確に把握することで

- ・同じ検診を何度も受けてしまうことを防ぐ
 - ・まだ受けていない人に対して、検診の案内や受診の呼びかけを行う
- といった取り組みに役立てることを目的としています。

Q17 [SA (単一回答)]

このような職場のがん検診の受診情報を市区町村が把握できるようにすることについて、あなたはどのようにお考えですか。

1. 賛成である
2. どちらかといえば賛成である
3. どちらかといえば反対である
4. 反対である
5. わからない／回答しない

Q18 [SA (単一回答)]

あなたは「がんゲノム医療」について、聞いたことがありますか。

1. 聞いたことがあり、内容も含めてよく知っている
2. 聞いたことはあるが、内容はよく知らない
3. 全く聞いたことがない

遺伝子パネル検査とは、がん細胞の遺伝子を調べる検査です。この検査により、自分に合った治療法が見つかる可能性があります。

■ いつ受けられる？

現在は、一般的な治療（標準治療）が終わった後に、保険で受けることができます。

■ 検査から治療につながる人はどのくらい？

検査を受けた人のうち、遺伝子の情報をもとにした治療を受けられた人は、現在は約 9%です。

一方、治療のより早い段階で遺伝子パネル検査を受けた場合は、治療につながる人が約 25%に増えるという報告もあります。

■ 良い点

- ・自分に合った治療が見つかる可能性がある
- ・効果が期待できない治療を避けられる可能性がある
- ・治験（新しい薬の試験）に参加できる可能性がある

■ 注意点

- ・ 検査を受けても、治療につながらないことがある
 - ・ 最適な薬が見つかって、その薬が使えないことがある (薬が未承認の場合など)
 - ・ 検査で思いがけない遺伝の病気が見つかることがある
 - ・ 検査費用は約 60 万円 (自己負担は約 18 万円)
 - ・ 多くの人が検査を受けると、国の医療費の負担が増える可能性がある
- 以上を踏まえ、あなたの考えをお聞かせください。

Q19 [SA (単一回答)]

上の説明内容について、どの程度理解できましたか。

1. よく理解できた
2. だいたい理解できた
3. あまり理解できなかった
4. ほとんど理解できなかった
5. わからない/回答しない

Q20 [SA (単一回答)]

遺伝子パネル検査を、治療のより早い段階から公的保険で実施できるようにすることについて、あなたの意見を教えてください。

1. 賛成である
2. どちらかといえば賛成である
3. どちらかといえば反対である
4. 反対である
5. わからない/回答しない

Q21 [MA (複数回答)]

遺伝子パネル検査を、治療のより早い段階から公的保険で実施できるようにすることについて、「賛成」とお答えになった理由をお聞かせください。

あてはまるものをすべてお選びください。

1. 助かる可能性が高まる人が増えると思うから
2. 早期に治療につながるなら望ましいと思うから
3. 自分に最適な治療を受けられる可能性が高まるから (効果が期待できない治療を避けられる・副作用の少ない治療を受けられる)
4. 公的保険で負担する価値のある医療だと思うから
5. 技術が進むことで治療につながる割合がさらに上がると期待するから (治験への参加を含む)
6. その他 (FA)

[排他] 7. 特に理由はない/回答しない

Q22 [MA (複数回答)]

遺伝子パネル検査を、治療のより早い段階から公的保険で実施できるようにすることについて、「反対」とお答えになった理由をお聞かせください。

あてはまるものをすべてお選びください。

1. 治療につながる可能性は低いと感じたから
2. 国の医療費が増えすぎることが心配だから
3. 最適な薬が分かっても、その薬が使えない (薬が未承認である) ことがあるから
4. 遺伝子検査を受けることが不安だから
5. その他 (FA)

[排他] 6. 特に理由はない/回答しない

消費者向け遺伝学的検査とは、インターネットなどで申し込み、自宅で採取した唾液などを送ることで、がんや生活習慣病のリスクなどを調べる検査です。

※これらの検査の多くは、医学的な効果や正確性が十分に検証されていないものも含まれています。

Q23 [SA (単一回答)]

このような消費者向け遺伝学的検査について、あなたの経験や考えに最も近いものをお選びください。

1. これまでに受けたことがある
2. 受けたことはないが、今後受けてみたい
3. 受けたことはなく、これからも受けたくない
4. わからない／回答しない

日本の医療費は年間約 45 兆円で、主に以下の 3 つで賄われています。

- ・ 公的医療保険 (会社員・自営業者などが支払う保険料) : 約 50%
- ・ 税金 (国・地方自治体の負担) : 約 40%
- ・ 患者の自己負担 : 約 10%

今後、高齢化に伴い医療費はさらに増加することが見込まれており、制度の持続可能性が課題となっています。

Q24 [SA (単一回答)]

国の医療費には限りがあります。遺伝子検査や抗がん薬などの高額で先進的ながん治療にかかる費用を国が負担することについて、

あなたのお考えに最も近いものをお選びください。

1. 命にかかわる可能性がある以上、費用が高くても、できる限り公的保険でまかなわれるべきだと思う
2. 公的保険の対象は主に一般的な医療に限定し、それ以外の高額で先進的な治療などは、自己負担や民間保険で対応すべきだと思う
3. このような優先順位のつけ方については、判断するのが難しい

4. その他 (FA)

5. わからない/回答しない

予防医療とは、病気になる前に予防するための医療です。

例えば、がん検診の無料化拡充、禁煙支援、HPV ワクチン接種の普及などが含まれます。

Q25 [SA (単一回答)]

がん検診や予防医療の充実に、公的なお金 (税金や保険料) をもっと使うことについてどう思いますか。

1. 現在より増やすべき
2. 現在と同じ程度でよい
3. 現在より減らすべき
4. わからない/回答しない

保険診療と保険外診療の組み合わせについて

■ 現在の仕組み

日本では原則として、保険診療 (公的保険が使える治療) と保険外診療 (公的保険が使えない治療) を同時に受けることができません。

そのため、公的保険が使えない新しい治療を受けたい場合、公的保険が使える部分も含めて全額自己負担になることがあります。

■ 混合診療の範囲拡大とは

一定の条件を満たせば、保険診療と保険外診療を組み合わせることができる制度があります。この範囲を広げることが議論されています。

■ 良い点

- ・全額自己負担をする場合に比べ、(保険適用部分は保険給付を受けられるため) 総負担が減る

■ 心配な点

- ・お金がある人となない人で、受けられる医療に差が生じる可能性がある
- ・効果が十分に確かめられていない治療が広まる恐れがある

Q26 [SA (単一回答)]

保険診療と保険外診療を組み合わせる受けられる範囲を広げることについて、あなたのお考えに最も近いものをお選びください。

1. 治療の選択肢が広がることは重要であり、自己負担を払える人から自由に使えるようにすべきだと思う
2. 経済力によって受けられる治療に差がつくべきではないので、範囲の拡大には慎重であるべきだと思う
3. 選択肢が広がるメリットは大きいですが、低所得者向けの公的な費用補助などがセットでなければ拡大すべきではないと思う
4. 効果が確かめられていない治療が広まる恐れがあるので、範囲の拡大には慎重であるべきだと思う
5. その他 (FA)
6. わからない/回答しない

高額療養費制度は、医療費の自己負担額が一定の上限を超えた場合に、超えた分を公的医療保険が負担してくれる仕組みです。

■ 自己負担の上限額の例 (1 か月あたり)

- ・ 年収約 370 万円以下の方：約 57,600 円
- ・ 年収約 370～770 万円の方：約 80,000 円
- ・ 年収約 770～1,160 万円の方：約 167,400 円
- ・ 年収約 1,160 万円以上の方：約 252,600 円

この制度により、がん治療などで高額な医療費がかかっても、自己負担額は上限以内に抑えられます。

■ 現状の議論

医療費全体が増加する中で、制度を持続可能な形で維持するための見直しが議論されています。

Q27 [SA (単一回答)]

高額療養費制度についてどの程度知っていましたか。

1. よく知っていた
2. ある程度知っていた

3. 名前を聞いたことがある程度

4. まったく知らなかった

Q28 [MA (複数回答)]

医療費の増加により、高額療養費制度を維持するための国の医療費負担が年々増加しています。

この制度を今後も維持していくために、どのような方向が良いと思いますか。

1. 収入が多い人は、自己負担の上限をもっと高くする
2. 極めて高額な新しい治療を受ける場合は、別に負担を求める
3. 効果が十分に明らかではない治療は、この制度の対象から外す
4. 私たちが毎月払う社会保険料を値上げして、みんなで広く負担する
5. 70歳以上の優遇（一般的に現役世代より負担が軽い仕組み）を見直す
6. 消費税などの税金を増やしてでも、今の制度を維持する
7. その他 (FA)

[排他] 8. 現在の制度のままで見直す必要はない

[排他] 9. わからない／回答しない

Q29 [SA (単一回答)]

次の2つの考え方のうち、あなたはどちらに近いですか。

1. 税・保険料の負担を増やしてでも、公的保険により誰でもしっかり医療を受けられる方が良い
2. 税・保険料の負担を増やさずに、公的保険に含まれる医療には一定の線引きや優先度を設けた方が良い
3. どちらともいえない